

執筆者紹介

1. 氏 名： 遠 藤 司 (えんどう つかさ) Tsukasa ENDO, Ph.D.

学 歴： 1986年 東京大学教育学部教育心理学科卒業

1988年 東京大学大学院教育学研究科修士課程修了

1993年 東京大学大学院教育学研究科博士課程満期退学

現 職 駒澤大学総合教育研究部教職課程部門教授 (教育学博士)

研究テーマ： 障害の重い子どもの教育方法、授業者の成長のとらえ方の研究

主要業績： 2006年・『重障児の身体と世界』風間書房 (博士学位請求論文を補筆・修正したもの)

2010年・『実感から関係化へ—ある重度重複障害者と関わって—』春風社

2013年・『はじめての言葉』に関する一考察—『コミュニケーションの原理』から『言葉』に至る過程について考える』(『学ぶと教えるの現象学研究十五』 pp.45-60)

2014年・『『場所』から『言葉』へ—重度・重複障害者との関わりから学んだこと—』(『駒澤大学教育学研究論集』第30号 pp.81-135)

2015年・「言葉を『語る』ことに関する一考察—一人の重度・重複障害者との関わりから学ぶ—」(『学ぶと教えるの現象学研究十六』 pp.1-14)

2016年・『『自分らしさ』、『自立』に関する一考察—ある一人の障害の重い人との関わりから学ぶ—』(『駒澤大学教育学研究論集』第32号 pp.39-78)

2. 氏 名： 田 端 健 人 (たばた たけと) Taketo TABATA, Ph.D.

学 歴： 1992年 東京大学教育学部学校教育学科卒業

1994年 東京大学大学院教育学研究科修士課程修了

1999年 東京大学大学院教育学研究科博士課程修了 (教育学博士)

現 在 宮城教育大学教育学部教授

研究テーマ： 教育実践哲学、災害と学校の研究、現象学的方法に関する研究

主要業績： 2010年・「子どもの討論を喚起する武田常夫の国語の授業—ハイデガーの芸術論を導きとして—」中田基昭編著『現象学から探る豊かな授業』多賀出版pp.63-108

2012年・『『遊びの高度化』としての島小実践—ホイジンガを導きとして—』横須賀薫編『斎藤喜博研究の現在』春風社pp.299-355

2012年・『学校を災害が襲うとき—教師たちの3・11—』春秋社

2013年・「子どものケアと学校教育—〈空気〉と〈光〉の現象学—」西平直編著『ケアと人間』ミネルヴァ書房pp.165-186

2015年・「故郷喪失時代のまちと学校—ハンナ・アーレント『教育の現象学』から—」『理想 第694号：特集 教育・臨床・哲学のアクチュアリティ』理想社

2016年・「子どもの哲学 (p4c) による超自我の覚醒—コミュニティ対話の現象学的心理学—」『宮城教育大学教育復興支援センター紀要』第4巻

3. 氏 名： 神 林 哲 平 (かんばんやし てっぺい) Teppei KAMBAYASHI, B.A.
 学 歴： 2002年 早稲田大学人間科学部卒業
 現 在 早稲田実業学校初等部教諭
 研究テーマ：「きく」ことの現象学、サウンドスケープ研究、環境教育、教育方法学
 主要業績： 2009年・「環境教育におけるサウンドエデュケーションの意義—小学校における授業実践の評価を通して」『環境教育』41号pp.17-28
 2011年・「構造構成的サウンドスケープ論—サウンドスケープ研究における原理的な共通理解に向けて」『サウンドスケープ』12-2号pp.27-36
 2012年・「環境教育における原理的な共通理解のためのメタ理論『構造構成的環境教育モデル (SCEEM)』の構築—五感を用いた授業実践を応用例として」『環境教育』50号pp.39-52
 2015年・「サウンド・エデュケーションのねらいに関する実践的研究—現代的課題に応じた新たな可能性を探る」『サウンドスケープ』15-2号pp.82-91
 ・「『きく』ことからの学び—友達も自分も好きになる教育をめざした20のアイデア」文藝書房
 2016年・「生活科におけるサウンド・エデュケーションの意義と可能性—『気付き』の観点からの授業実践分析を通して」『早実研究紀要』50号pp.41-54
4. 氏 名： 小 澤 豊 (おざわ ゆたか) Yutaka OZAWA, M.A.
 学 歴： 1999年 東北大学教育学部学校教育学科卒業
 2002年 東北大学大学院教育学研究科修士修了
 職 歴： 2002年 法務教官として東北少年院（仙台市）に採用
 以後、青葉女子学園、福島刑務所の勤務を経て
 現在、置賜学院統括専門官（企画調整・教務担当）として勤務
 研究テーマ：現象学的アプローチによる矯正教育の実践研究
 主要業績： 2005年・「教育実践報告 被害者を感じ受する矯正教育の在り方について」『教育思想32号』
 2007年・「第二者に立つ矯正教育」『リフレクション 臨床教育人間学2』
 2015年・「反転と重ね合わせの技法へ」『学ぶと教えるの現象学研究16』
 2015年・「『既知の関係』から『未知の関係』へ—TEA(複線径路等至性アプローチ)を用いた知己関係指導の分析と今後の展望」『矯正教育研究61号』

5. 氏 名： 福 田 学 (ふくだ まなぶ) Manabu FUKUDA, Ph.D.

学 歴： 1996年 慶應義塾大学文学部文学科仏文学専攻卒業
1999年 慶應義塾大学教職特別課程修了
2001年 東京大学大学院教育学研究科修士課程修了
2007年 東京大学大学院教育学研究科博士課程修了 博士(教育学)
現 在 新潟大学教育学部准教授

研究テーマ：教育哲学、発達研究

主要業績： 2010年・『フランス語初期学習者の経験解明—メルロ＝ポンティの言語論に基づく事例研究—』風間書房
2011年・「ポランの道徳哲学に基づく教師－生徒関係の捉え直し—『学級崩壊』のなかでの授業展開をとおして—」『人間性心理学研究』28巻2号pp.151-163
2013年・「サルトルと神経科学—『否定』を問題とする脳機能研究についての現象学的考察—」『学ぶと教えるの現象学研究』15巻pp.71-104
・「現象学的存在論に基づく『語信念課題』の再解釈—『心』の発達における《否定》の意味—」『新潟大学教育学部研究紀要人文・社会科学編』6巻1号pp.17-36
2015年・「模倣をめぐる科学と哲学の架け橋—ミラーニューロン説から後期メルロ＝ポンティへ—」『理想』694号pp.120-132

6. 氏 名： 福 若 眞 人 (ふくわか まさと) Masato FUKUWAKA, M.A.

学 歴： 2009年 大阪府立大学人間社会学部人間科学科卒業
2011年 大阪府立大学大学院人間社会学研究科博士前期課程修了
現 在 京都大学大学院教育学研究科博士後期課程 在籍中

研究テーマ：人間形成論、教育人間学

主要業績： 2012年・「レヴィナス思想における主体性と自殺の関係—「自殺する側」に応答する「自殺される側」の変容—」『人間社会学研究集録』第7号 pp.27-47
2013年・「「語り」による「死者」と「生き残った者」の関わり—レヴィナス思想における「埋葬」と「復活」を手がかりにして—」『人間社会学研究集録』第8号 pp.45-65
2013年・「レヴィナス思想における「子ども」の意味—過去・現在・未来を貫く〈善さ〉—」『京都大学大学院教育学研究科紀要』第59号 pp.333-345
2014年・「「他者の死」への倫理的応答を触発する「教え」—レヴィナス思想に見る「死」の主題化と「語り直し」—」『ホリスティック教育研究』第17号 pp.45-54
2015年・「レヴィナス思想における「作品」と主体性の関係」『関西教育学会年報』第39号 pp.11-15
2016年・「「聞くこと」の他動性と「行うこと」の先行性—レヴィナス思想における非暴力的な「教え」の可能性と条件—」『教育哲学研究』第113号 pp.112-129

7. 氏 名： 奥 井 遼 (おくい はるか) Haruka OKUI, Ph.D.

学 歴： 2007年 京都大学総合人間学部卒業
2009年 京都大学大学院人間・環境学研究科修士課程修了
2012年 京都大学大学院教育学研究科博士課程研究指導認定退学
2014年 教育学博士
現 職 日本学術振興会海外特別研究員 (パリ第五大学)

研究テーマ：臨床教育学、教育人間学、現象学的身体論

主要業績： 2012年・「『沈黙の声』にみる身体的志向性—わざ研究へのメルロ=ポンティ現象学からの接近—」『京都大学大学院教育学研究科紀要』第58号 pp. 183-193.
2013年・「身体化された行為者 (embodied agent) としての学び手—メルロ=ポンティにおける『身体』概念を手がかりとした学び—」『教育哲学研究』第107号 pp. 60-78.
・「身ぶりと言葉による『学び』—人形遣いのわざ習得場面における行為空間の記述—」『ホリスティック教育研究』第16号 pp. 69-82.
2015年・「知識の参照点としての身体—淡路人形座の稽古場面における『ままならなさ』の現象学的記述—」『学ぶと教えるの現象学』第16号 pp. 41-54.
・『〈わざ〉を生きる身体—人形遣いと稽古の臨床教育学—』ミネルヴァ書房
2016年・« Comment le corps saisit-il un nouveau mouvement ? : Vers une 0^{ème} dimension d'une interaction des corps », B. Andrieu (ed.) *Apprendre de son corps*. (12月刊行予定)

8. 氏 名： 生 越 達 (おごせ とおる) Toru OGOSE, M.A.

学 歴： 1984年 東京大学法学部卒業
1986年 東京大学教育学部学校教育学科卒業
1988年 東京大学大学院教育学研究科修士課程修了
1992年 東京大学大学院教育学研究科博士課程単位取得退学
現 職 茨城大学教育学部教授

研究テーマ：現象学的授業論、子ども論、不登校などの「問題」行動の理解

主要業績： 2005年・「子どもの自己と世界、その構造と意味の変化—相談室でのエピソード「プレゼント」と「追いかけっこ」の解釈を通して—」『人間性心理学研究』第19巻2号 pp.103-113
・「気分における「公共性」と「わたし」」『生活指導研究』第22巻 pp.107-122
2006年・「ハイデガー技術論についてのスケッチ」『茨城大学教育学部紀要 (教育科学)』第55号 pp.267-284
2006年・「校内で協働をはかるために養護教諭に期待すること—「ずらす」存在、「つなぐ」存在としての養護教諭—」『学校保健相談研究』第3巻第1号 pp.25-33
2013年・「文化的多様性を育む存在としての養護教諭」『学校健康相談研究』第10巻1号 pp.2-13
2016年・「教育学部における臨床的養成研修と課題」『学校救急看護研究』pp.56-65

9. 氏 名： 吉 田 章 宏 (よしだ あきひろ) Akihiro YOSHIDA, Ph.D.
- 学 歴： 1960年 東京大学教育学部教育心理学科卒業
1967年 米国イリノイ州立大学大学院博士課程修了Ph.D.の学位取得
- 職 歴： 米国イリノイ大学、コーネル大学、お茶の水女子大学助教授、東京大学助教授/教授、岩手大学教授、川村学園女子大学教授、淑徳大学教授、放送大学客員教授、東京大学名誉教授
- 研究テーマ：現象学的心理学、教育/授業の心理、人間研究方法論、発問、など。
- 主要業績： 1995年・『教育の心理：多と一の交響』放送大学教育振興会
2004年・『心理学研究方法論をめぐる省察：多種多様な心理学の統合の可能性』『淑徳大学社会学部研究紀要』第38号、219-240
2005年・「『説明』を誘う発問と『理解』を誘う発問—ある達人教師の授業実践における発問芸術の現象学的解明—」『淑徳大学大学院社会学研究科研究紀要』第12号、39-82
2009年・「〈教育の極意〉『共に育ちましょう』の教育心理学的考察」『淑徳大学総合福祉学部研究紀要』第43号、71-95
2015年・『絵と文で楽しく学ぶ大人と子どもの現象学』吉田章宏/文、西川尚武/絵 文芸社
2013年・ジオルジ, A. 『心理学における現象学的方法：理論・歴史・方法・実践』吉田章宏訳、新曜社
2006年・On Tamamushi-iro Expression: A Phenomenological Explication of Tamamushi-iro-no (Intendedly Ambiguous) Expressive Acts. *Essais de psychologie phenomenologique-existentielle : reunis en hommage au professeur Bernd Jager*. Cirp 300-335
2010年・Living with Multiple Psychologies. In Michael Barber, Lester Embree, and Thomas J. Nenon ed. *Phenomenology 2010. Volume 5, Selected Essays from North America: Phenomenology beyond Philosophy*, Zeta Books, Bucharest, Chap. 37, 325-349
・A Phenomenological Explication of a Master Teacher's Questioning Practices and its Implications for the Explanation/Understanding issue in Psychology as a Human Science, Thomas F. Cloonan & Christian Thiboutot ed. *The redirection of psychology; Essays in honor of Amedeo P. Giorgi*. Cirp (Interdisciplinary Circle of Phenomenological Research) University of Quebec in Montreal & Rimouski, 279 – 297